

クリエイトひがしね ニュース

発行 NPO法人クリエイトひがしね 999-3796 山形県東根市中央1-5-1 タントクルセンター内
TEL 0237-43-1155 www.higashine.org 発行責任者 菊地和博



昭和の子どもからの応援歌

理事 村田民雄

今から80年以上前、昭和初期の長瀨小学校で「想画教育」と「綴方教育」が同時期に実践され、全国に長瀨小の名前が知れわたっていました。ともに目の前の「生活」を題材にした教育実践です。このときの想画作品は、長瀨小学校に保管され東根市の有形文化財に指定されています。また「綴方」は、16冊の文集が保存され、今でも目にすることが出来ます。

奇跡ともいえるこの二つの教育遺産を合わせて「画文集昭和の記憶」として刊行する企画が今進められています。この編集作業の中で私たちは80年前にタイムスリップして子どもたちと向かい合っています。農業が主であった時代、子どもの生活もその仕組みの中に組み込まれ、農繁期には子守りや田植えや稲刈りの手伝いなど大切な働き手でありました。

「ままかせね」という詩があります。

いねしょいすろ／やんだ
んだらままかせね

んだらする／んだらする
んだらままかせね
かせる／んだらする

この詩には、家の手伝いを逃れて遊びに出たい子どもと、何とかして手伝わせたい親のかけひきが、夕食を取引材料にして描かれ笑いを誘います。また、「しかられ日記」と題した夏休みの日記には、草とりを言いつけられた子どもが「わらわら遊びに行った」が、夕方帰ってくると母親に「うき遊び上手だな」といつてなぐられる。子どもたちの遊びに対する執念は強く毎日なぐられるのを承知で繰り返すのである。この子どもたちは親に遊びを奪われたのでしょうか。親の虐待を受けていたのでしょうか。この時代の子どもたちは不幸だったのでしょうか。画文集にあふれているたくましい子どもたちの姿は、平成を生きている子どもたち、そして今を生きるすべての大人たちへの応援歌に聞こえてくるのです。

特集 外部視察研修報告

7月12日の休館日を利用しグループに分かれて福島県、宮城県、鶴岡市と外部視察研修を行いました。職員自らが行き先を決め、下調べをし、時間の許す限り視察した先には新しい発見と気づきがたくさんありました。

たんぽぽサロン (福島県白河市)

一軒家でやっている子育てひろば「たんぽぽサロン」は、震災直後から親子の居場所づくりに取り組んでおり、放射能の影響や震災後の厳しい環境の中で子育てをする親子の大切な居場所でした。そんな状況でも、サロンの中がいつもあたたかかったのは、そこに参加する親子や全国からの支援・協力者、関わるスタッフみんなの「想い」が溢れているからだと感じました。今回の視察研修は外部の



取り組みを学ぶだけではなく、自分たちの取り組みを振り返る機会となりました。東根ならではの豊かな自然と、屋内外の子育て支援施設を活かした親子・地域の居場所づくりに自分たちがどんな「想い」を込めて取り組むか、試行錯誤しながら挑戦していきます。

工藤陽香・荒木理佐・高橋幸江チーム



西公園プレーパーク (仙台市)

仙台市青葉区の西公園にあり『自分の責任で自由にあそぶ』『やってみよう!』に挑戦できる遊び場。『子育て』をキーワードに近隣の14団体が集まる「青葉区ご近所会議」により、お互いの理解が深まり協働での活動が生まれていることや『とことんDay』というやりたいことをとことんみんなでやる日がありました。ユニークな取り組みが印象的でした。

子育て応援団ひよこ (名取市)



名取市増田児童センターで学童保育や下校後の自由来館、保護者や乳幼児支援、ファミ・サポを行っており、随所に『遊育』の考え方や活動が多くみられました。



視察した2ヶ所ともそれぞれのスタッフの思いを地道に根気強く伝えていることは同じです。私たちも地域とつながる、人とつながる、地道に思いを伝えることの大切さを改めて実感し、今後の業務につなげていこうと感じた外部視察研修でした。

渡辺友美、細谷由紀、松田顕子、庄司美保子チーム

おおとみ保育園 (東根市) げんキッズ (天童市) べにっこひろば (山形市)



どの施設も活気があり、職員の方々はみな、生き生きと働いており、たくさん刺激を受けてきました。

「今、求められていることは何か」「これから何が必要なのか」常に感じ取り、時代を読む。そして、私達は何をすべきなのか、何ができるのか、日々、進化していかなければならないと感じました。

開館して12年目のさくらんぼで、地域のみなさんから愛されて、“地域とともに”歩んできました。今後は地域の枠を広げ、市外、県外、日本全国へと“遊育”(子ども自ら遊び育つ)・“共育”(共に育つ)を発信していきたいと思えます。

丹野久江・結城栄子チーム

シェルターなんようホール 伝国の杜置賜文化ホール 置賜総合文化ホール

施設コーディネーター職員は、タントクルセンターと同様の機能を持つ複合施設である三カ所を視察してきました。

シェルターなんようホールは、木造耐火作りの文化施設として全国的にも有名で、多くのコンサートを催している大人気の施設で、貸館業務は、あまり制限を設けずに自由な感じがしました。

伝国の杜置賜文化ホールは、能舞台をメインに伝統文化に特化している印象を受けました。米沢市の博物館、山形県の文化ホールとが一緒になっており、管理・運営がとても大変ということでした。

置賜総合文化センターは、教育委員会、青年の家が入居している社会教育施設です。老朽化に伴い修繕費が毎年嵩んでいるとの事。貸館については、個人や企業への貸し出しは行っておらず、お客様に対して同じような言い回しを心掛けているなど、私たちの業務に参考になるお話を伺う事ができました。三施設ともスタッフ間の引継ぎやコミュニケーションがしっかり行われ、管理・運営されていました。この視察で学んだ事を生かし、「来て良かった」「また来たい」タントクルセンターになるよう、質の高い受付を目指し尽力していきます。

奥山節子・齋藤千里・梁川 勉・原田賀代・伊藤和文・山平康子・平京子・山田容子チーム



青空保育たけの子 (米沢市) はらっぱ里山保育園 (山形市)



両施設に共通したキーワードは、「遊びの文化をつくる」、「保育園だが“保育”といわず、子ども達と一緒に暮らしをつくっていく」、乳幼児にも意思があるという考えにたち、大人から一方的に与えることはせず、子ども達の意思や思いを尊重して慈しむ大人の姿勢を学びました。だからこそ、その子、その保護者、子どもの近くで一緒に暮らしをつくる大人の存在があり、多様な考えが生まれ、その場の「遊びの文化」をつくっていくと感じました。遊びの文化をどうつくっていききたいか。おおきな課題を見つけました。

高橋陽介・板坂 諭・村山恵子チーム



鶴岡市自然学習交流館ほとりあ (鶴岡市)

ほとりあでは環境保全の為、有害外来生物であるウシガエルやアメリカザリガニの捕獲を子ども達の遊びに取り入れながら、命があることを知る「いのち学」という体験活動も行なっていました。遊びの中にある生き物の命について我々も考えるきっかけとなりました。



三瀬保育園 (鶴岡市)



三瀬保育園の自由保育は、保育者の計画や日案で活動するのではなく、子ども達の生活を保育の軸に、海・山など広大な自然をフィールドに子ども達が満足のいくまで遊び込み1日を過ごしていました。楽しさややりたい事は大人が図るものではなく、子ども1人1人が出来るだけ満足でき、自分自身でいられる環境作りに努めたいと思います。

齋藤翔太・安達恵美・早坂美紅チーム

けやきジュニア合唱団

新しい募集チラシが出来ました

新団員募集のためのチラシができました。保護者会会長の松木さんデザインによるものです。2000枚を印刷、市内小学校の2年～5年生に配布し新しい仲間ができるのが楽しみです。

ながい間ごろうさま

さる6月10日(土)、合唱団の立ち上げから今日までの十数年間にわたって、合唱団を支えてくださった、事務局の鈴木茂子さん、長谷川宣政さん、保利時子さんが引退することになり、感謝の会を開催しました。本当にありがとうございました。



けやきジュニア合唱団 団員募集




11月に開催される山形県少年少女合唱祭に向けて、新メンバーを大募集中です！まだ間に合います！これから頑張って練習をして、一緒に大きなステージで歌ってみませんか？産まとも、見学に来てみてください！

♪入団お試しキャンペーン実施中♪
 今なら最初の1ヶ月間、会費が無料です。
 歌が好きなお友達
 まずは一緒に歌ってみましょう！

11月の練習スケジュール

月	日	練習
11	1	
11	2	
11	3	
11	4	
11	5	
11	6	
11	7	
11	8	
11	9	練習
11	10	
11	11	
11	12	
11	13	
11	14	
11	15	
11	16	
11	17	
11	18	
11	19	
11	20	
11	21	
11	22	
11	23	
11	24	
11	25	
11	26	
11	27	
11	28	
11	29	
11	30	

練習日：土曜日(月3回)
 午後4時～5時30分
 場所：さくらぼタントクルセンター
 会費：月2000円
 お問い合わせ：NPO法人クリエイティブがしほ(タントクルセンター内)
 TEL 0237-43-1155

YYボランティア in higashine



中高生が社会貢献を通して心身ともに成長すること目的に、山形県青年の家が企画している「YYボランティア」へ、あそびあランドに19人、けやきホールには17人が参加しました。遊びを通じて学ぶのは小さい子どもだけではありません。いろんなチャレンジが自分の可能性を広げる、それが「遊んで育つ」遊育の力です。感想の一部をご紹介します



7月22日(土) みんないきいき元気に遊んでいてサポートをするよりかは「友達になって一緒に遊ぶ」ということが多く、子どもがもっと好きになりました。

8月16日(水) 子ども達と話す時は必ず子ども達の間を見て、子どもの目線になることが大事。中3でまだまだ将来について明確ではないので、自分の将来について考えるいい機会だった。



あそびあランド

8月7日(月) 日なたで走り回ったり、日かげで本を読んだり、それぞれの遊びかたが違って楽しいと思う事は人それぞれと感じた。その子に合った遊び方を提供し、保護者との交流も大切にしてくれて素敵でした。

8月21日(月) 職員たちは親子のことをたくさん考えていて、ボランティアをしたからこそ新たに知った素敵なことでした。

編集後記

★今年の夏は全国各地で豪雨による被害が続発しました。東根まつりも天候が心配されましたが晴男がいたらしくかろうじてセーフ。あそびあランド、タントクルセンターの来場者数も気になるのですが好調な数字が出ています。両施設をあわせて利用いただければ「全天候型」ともいえる東根市の子育て施設です。(M)